（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	KIZUNA柴崎教室			
○保護者評価実施期間	2025年　4月　1日		～	2025年 4月 20日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	17	（回答者数）	17
○従業者評価実施期間	2025年　4月　1日		～	2025年 4月 20日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	10	（回答者数）	10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　4月　２８日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童指導員、保育士、児童福祉事業経験5年以上の職員に加え、理学療法士といった専門職員が常勤で療育を行なっている。また、作業療法士や心理士も非常勤職員として配置しより幅広い専門性のある療育を行っている。	・保護者の方へも専門職配置については説明を行い、必要に応じて支援児童並びに保護者さまに対しても支援や説明を行える体制を整えている。 ・専門的支援実施計画を作成し、専門職員が専門的支援を実施している。	・より感覚分野（前庭覚・固有覚・触覚）の専門性を活かしたプログラムを実施していけるように研修や日々の会議等を行い専門性を高めていきたい。 ・日々のフィードバックや面談を通し、保護者さまの悩みやお子さまの課題をキャッチ出来るように努め、課題に応じて対応しお子さまの成長・自立に繋がる支援を行っていく。
2	・1クラス2-3名の小集団で療育を行なっているため、一人ひとりのお子さんの課題に沿って、専門的に支援を行なう事ができている。	・お子さまのクラス分けを課題に応じて決定することで、お子さまの成長に繋げ、保護者さまにも活動内容に理解を深めてもらえるように努めている。 ・フィードバック強化を行い、日々の運動内容の説明及び個人の様子や課題を伝えることで保護者の方にも成果を感じてもらえるよう工夫している。	・専門的支援の課題を更新する際にはお子さまの状況を職員間で共有し、全ての職員が課題を把握出来るように努めていく。また保護者の方への説明時には専門用語ではなく分かりやすい言葉を用いて理解を深めてもらえるように継続的に支援にあたっていく。
3	・請求業務を外部委託することにより、その分職員が現場に集中できている。	・委託業者と都度連携を取ることで、請求業務に職員が無駄な時間を取られることのないように工夫している。	・業務ソフトを年度内に導入し、更なる業務効率を図ることで、療育の時間に充てていき質の高い支援を提供出来るよう努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・2024年度は職員が安定せず、保護者の方々が不安を感じてしまったり、親しみを持っていた指導員がいなくなることで気軽に相談がしずらい環境にあった。	・児童発達管理責任者の退職があり、保護者の方から不安感を抱く意見を頂いた。また指導員の異動も重なり、どの指導員がいるのかが不明瞭な点が要因と考える。 ・面接時にKIZUNAは契約数が他の法人に比べ多いことを伝え、採用でのミスマッチが起きてしまった。（児発管）	・職員紹介やプロフィールは現在教室に配置している職員を掲示し、顔や名前を覚えてもらいやすいように再設置を行った。また保護者の方へもフィードバック時等や会話を通してコミュニケーションを図り、安心感を持っていただけるよう努めていく。 ・面接時にKIZUNAは契約数が他の法人に比べ多いことを伝え、採用でのミスマッチが起こらないようにする。（児発管）
2	・1クラス3-4名の児童に対して、ほぼ同数の職員が配置され、手厚い療育を行なっているが、支援時間が1時間と短いため、できる事が限られてしまう。	・支援時間は1時間ではあるが、前後の身支度等の時間を考慮すると、実質は45分程度の支援時間となってしまう。	・メインのプログラム実施時間は45分程度だが、身支度等身辺自立に関わる動作習得も行い、来所している時間すべて療育である意識を強く持って受け入れを行っていく。 ・短い時間でも満足して頂けるように、より専門性の高いプログラムを取り入れていく。 ・お子様の満足感も担保するために、楽しんで参加できる活動もバランスよく行なっていきたい。
3	・送迎を行なっていないため、保護者の仕事の都合や家庭の事情等で、通所を断念される方もいらっしゃる。	・送迎はないが、その分職員が現場に集中し支援にあたることが出来るほか、保護者の方々が活動の様子を見学することが出来る。 ・また、土日祝日も支援を提供できている。	・送迎業務は今後も検討はしていないが、保護者と来所をすることで活動見学にも繋がり、一緒に成長を感じられる場となっていくようにコミュニケーションを図りながら今後もより良い支援を提供していく。